

令和7年度 教科名 学年 年間指導計画

指導時期	単元名・教材名	学習活動の流れ
4月	生物の体をつくるもの	生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること知る。 動物細胞と植物細胞の特徴を見だし違いを理解する。
	物質の成り立ち	物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見いだす。
5月	植物の体のつくりとはたらき	植物の葉や茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりを理解する。 光合成、呼吸、蒸散のはたらきについて知る。
	物質の成り立ち	物質は原子や分子からできていることを認識する。
6月	動物の体のつくりとはたらき	消化についての実験を行い、消化の仕組みについて理解する。 消化や呼吸、血液の循環が動物の体に必要な物質を取り入れ、運搬していることや仕組みを知る。
	物質の表し方	原子や分子を化学式で表すことができるようになる。
7月 8月	動物の行動のしくみ	動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連づけて理解する
	物質の表し方	化学式によって、物質の組成や化学変化を表すことができるようになる。
9月	地球をとり巻く大気のようにす	大気圧がはたらいていることを理解し、身のまわりの大気存在を認識する。 気象要素について知り、天気の変化と関係付けて使えるようにする。
	物質の表し方	化学反応式によって、物質の組成や化学変化を表すことができるようになる。
10月	空気中の水の変化	霧や雲のでき方を、空気中の水の変化と関連づけて理解する。 地球上の水がさまざまな状態で存在し、霧、雲、雨や雪はその循環の一部であることを認識する。
	さまざまな化学変化	2種類の物質が反応して結びつく実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだす。
11月	天気の変化と大気の動き	気圧配置によって、大気の動きが生じることを理解する。 日本付近の高気圧や低気圧の移動と、それに伴う天気の変化を理解する。また、それが地球規模の大気の動きの一部であることを捉える
	さまざまな化学変化	さまざまな化学変化を原子・分子のモデルや化学反応式を用いて説明できるようになる。
12月	大気の動きと日本の四季	大陸と海洋の温度差によって生じる大気の動きが、日本の気象に影響を与えることを理解する。 日本付近で盛衰する3つの気団と関連づけながら、日本の四季の天気の特徴とそれが生じるしくみを理解する。
	さまざまな化学変化	酸化と還元が同時に起きていることや、化学変化に伴う熱の出入りについても認識する。また、それらが日常生活にも多く利用されていることに気づく。

1月	電流の性質	回路の基本的な性質や、電圧と電流の関係について規則性を見いだす。 回路の実験を行う中で、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。
	さまざまな化学変化	酸化と還元が同時に起きていることや、化学変化に伴う熱の出入りについても認識する。また、それらが日常生活にも多く利用されていることに気づく。
2月	電流の正体	日常生活と関連づけながら静電気の性質について調べ、静電気と電流には関係があることを見いだす。 電流の正体について理解する。
	化学変化と物質の質量	化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を行い、化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいことを見だす。
3月	電流と磁界	日常生活と関連づけながら、電流の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解する。 直流と交流の違いを捉える。
	化学変化と物質の質量	化学変化では、反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだす。